

住民説明会（6月27日）におけるご説明概要

1. 将来計画について

弊社臨界事故から間もなく19年になります。弊社は、事故後、主に旧加工施設の維持管理と保管廃棄物（放射性固体廃棄物）の点検・整備に取り組んでおります。

一方、放射性固体廃棄物の処理処分に関する国レベルの検討が徐々に進んでいます。このため、2012年度に弊社が管理している原子力施設の撤去、整備に関する基本計画（将来事業計画）を策定し、順次進めて参りました。

今後も同計画に沿った活動を行って参ります。

2. 2018年度年間事業計画について

弊社の将来事業計画を踏まえ、本年度は主に以下の事業を計画しております。

- ① 保管廃棄物の管理、施設の保守管理
例年通り、保管廃棄物の管理、施設の保守管理を安全最優先で行います。
- ② 保管溶媒焼却の運転
引き続き、保管溶媒焼却の安全な運転を継続します。
- ③ 第2管理棟内の旧加工設備の撤去、固体廃棄物処理棟の非管理区域化
旧加工施設撤去工事を継続し、設備の撤去が済んだ施設については非管理区域化工事を進めます。
- ④ ウラン付着金属等のウラン及び金属の再資源化処理委託（搬出）
2016年より、保管廃棄物の内、再資源化が可能であることが判明したウランを含む残渣（ウラン残渣）及びウランが付着している金属（ウラン付着金属）について、海外で再資源化処理を行っております。本年もこの再資源化処理のための搬出を継続します。
- ⑤ 第1管理棟の一部撤去開始
将来の管理区域縮小に備え、必要な設備を移設する準備を進めます。
- ⑥ 住友金属鉱山(株)技術センターの第1試験棟及び周辺監視区域を当社に移管
2019年4月をめどに、弊社敷地内の住友金属鉱山(株)技術センターの第1試験棟及び周辺監視区域を当社に移管します。本件については、弊社にとっては管理区域施設の増設に当たるため、新增設等計画書を提出する予定です。

3. 焼却設備の運転状況について

2015年に開始いたしました保管溶媒の焼却は順調に進捗しており、2018年4月末時点で全体の約7割の焼却が完了しております。焼却による排気、排水への放射性物質の影響はありません。運転状況や、放射性物質の排出がないことにつきましては、近隣住民の皆様のご協力をいただき、第三者会議、線量調査会など社外の方々に定期的にご確認いただいております。

今後も安全を最優先に保管溶媒の焼却運転を継続して参ります。

以上